

逐次刊行物

昭和3年2月20日

ばてん-わん

A A T T E N - W O M A N

1月 No. 118

国立婦人教育館
婦人雑誌
編輯 河野美子
発行 河野美子

法制審小委

夫婦別姓問題を検討

世論の高まり受け29日から

法相の諮問機関である法制審議会の民法部会身分法小委員会(加藤一郎委員長)は二十九日から「夫婦別姓」問題の検討に入る。女性の社会進出で、結婚前の姓のままでも結婚を認めるべきだとの声が高まっているのを受けて議論するもの。

現在の民法では七五〇条に「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」と、どちらか一方の姓を選ぶ「夫婦同姓」が決められている。

しかし、一九八九年に結婚した夫婦の九七・八%が夫の姓を採用したように(厚生省調べ)、女性が改姓しているのがほとんど。このため、男女平等を求める市民団体などからは、夫婦同姓と夫婦別姓を自由に選べる法制度を要求する声が強くなっている。

また、女性の社会進出に伴い、結婚による改姓が職業や社会活動に障害になるケースが多くなり通称として使用を認めるよう求める裁判も起きている。

「夫婦別姓認めよ」3割

男は仕事 女は家庭 否定派増え4割に

総理府調査

この調査は、三十五年に一度の調査で実施されている。今回は昨年九月二十歳以上の五千人を対象に面接で行われ、有効回答率は七五%だった。

「男は仕事、女は家庭」という考え方は是非を問う質問では、「同意する」が二九・三%、「同意しない」が三九・一%。女性では前回、同意が三六・六%で、否定の三一・九%を上回ったが、今回は同意が五・一%、否定が四三・二%に上った。男性では、前回が同意五一・七%、否定二〇・二%だった。が、今回は同意が三四・七%に減り、否定が三四・〇%だった。

夫婦同姓・別姓の選択制に対する意識(数字は%)



(注)中都市は人口10万人以上の市、小都市は10万人未満の市

これは何と一月一日の「毎日新聞」ひまわりバツノと目に入ると来々私達バツノと云うつづり、おかしと思いつつ、つてまた事柄、その人と言つとそんなバカな、あなをまよしと云われ、また事柄それが元旦の新聞にのる時、つて

今年の朝も又、私達の方に向きま、ア、がんばるちとや、と思つ、はそんなうまん達です。下段の一月十五日の「朝日新聞」確定に人々の心はのわつつあふ、カ、ア、



1991年のばてんうーまん産。

何ともしよう？

③ 月3日はハッピー。オ3回目の「ばてんうーまん文庫」の贈呈式をします。おひさま館のかわりに、私達は棚と本を並べよう、もう、芳さよう、行動しよう。3年に1度発行する「サート」の売上げ金で長崎の若

便利な場所にある中央公民館の図書室に、女がより多く生み出される本を寄贈しつづけて来ましたが、今度の3回目「平冊」には、「ばてんうーまん文庫」とまた看板のかわり棚は色とりどり、貸出しもとても多いの事によろこんでいます。寄贈式はいつか3月3日、今年もむすびです。

④ 10-1.3年。今年は作製の年です。

3年ごとに出版している「サート」来年正月には又々新しい10-1の発行です。

10-1の欄外に載る女の情報。今度は何にしようかなと悩んで詰まっています。

女に關する数字ってどうなのだろう？ 今たたく相談中。若いアイデアがあまりなくて下らないね。

⑤ 業式の季節がやってきました。式の時、呼名は今迄は男が先、女が後。入道場も男が先、女が後。息長く混合同名の運動を続けている私達。今年も又、長崎市と周辺の全部の小、中学校の校長あてに、卒業式と入学式の呼名の男女混合、並びに男女混合をもとめる要望書を出します。

⑥ なる。イベントの季節。ミスコンの季節がやってきました。長崎も4月末には「港まつり」

として、いつもの様にミス・ナガサキ選出。今年はどうなっているのかとさぐって見た。ミスコンもあるかどうかまだ定まっていないと事(例年にならぬ事)主催の長崎新聞社に反対の意志を表明する。税金で買収されている自治体が協賛しないようにと強く長崎市へ要求する。

さあ、いつもの様に、やはり強く、希望を述べた。性差別と考える思想の表れ(1人ずつ選出の弊があるから、ドレ市街のくま)にあるミスコン廃止へスタートしよう。強い味方が今年も出来た。熊本市が廃止。二の新聞切り抜きを伝言コピーして、今更けつづけます。

熊本市、ミスコン廃止へ
熊本市は五日、火の国まつりなど市の行事のPRに参加するミス熊本、ミス肥後六花を廃止することを明らかにした。一近年、ミスコンテストは男女差別を助長するものとの論議もあり、内部からも見直しを求める声が出てきた」と理由を説明している。
ミス熊本選出大会は、昭和五十二年から毎年四月に開かれて

長崎の、りもの
(バスや電車)について。

津田 尚美



月日のたつのは早いもの。「ミス・コンテスト」も「出席簿」も男女混合名簿にも3年ぶりになりました。

それでも言わなきゃ変わらない。「ミス・コンは2003年の自治体がやめたいです！」(市島校社発会出版「婦人専修」'90.11.12月号)。小さい事でも使えやう、続け、変えてゆく事の大事さ！(変わらないもどかし！)。今回はバスと電車について日頃思っている事を書いてみました。

- 1) 停留所には、必ずイスを置いてほしい。狭い所には折りたたみイスもよい。
- 2) 屋根もつけて、なるべく広い屋根を！
- 3) 公衆電話とホストと(中央橋南と離れすぎている)
- 4) 美観をさげなない様に、ホストと取り除く(今、新しく箱だけ置いてある。ちょっと考えてくれようか、たのね)
- 5) 時刻表をよみやすく、路面案内図も各停留所に。
- 6) 夜は照明をつける(最終時間がみえない……つた、放してなくスイッチに！)
- 7) 終業迄のたのしいの所要時間と表示(普通車、ラッシュ時)
- 8) バスの来るのが、標識などで見えない所がある(果方前)
- 9) 停留所名は町名をつけては本事務所前とか、カリッセンター前とか、よその人には場所の目印がつかない)
- 10) 停留所では客が居る、いかに口をわす、一人必ず止まること(当り前の事なのに、最近の手をあげ、ないと止まる事！)
- 11) 一人しめた扉でも、発車する時は必ず入口をみて(あつ前のことなのに……又あつ前か、と待っていたのに、やまを待つ(もう一度も経験した)
- 12) 不正乗車かどうかめからず、犯罪者扱いで定期券の再提示を求める(ほかの客迄ふいっかいになる)

まだ、まだあります。次号につづけて、筆者がまわっている所。

みなさん！ あとを続けて書いて下さい！

投稿欄の中にいま見る不平等 <連載④>

S.S
(市在住 自治体職員)

呼称「あの子」「女の子」「〇〇君」について

30才あがても自分達、本物の女性を会話の中で「あの子」とか「女の子」とか、最近よく使っている。自らしている子供達の様子が非常に耳でわかる。可愛く表現しようとしているのかもしれない。

また、職場の男性も目下(と本人が思っている、目下は江戸時代じゃあるまいし)若く女性を指に言う所。固有名詞や「彼らは...」とは言わずに「あの子は...」という言い方もある。

女性も職場の若く男性に対して決して「あの子は...」とは言わない。「彼は」とか「〇〇君」とか言う。

ある職場での事を聞いた話であるが、女性も若く男性に「〇〇君」という言い方をしている。上司や「〇〇君」と言えはいいが、〇〇さんと言うと、言いかたの練習をさせられようがある。

ばつら-さん誌 117号について

編集者からのあやふ。

夏音、そしてありがとう。

1月18日付 西日本新聞



「あやふ」
「女の私はつんぼさじき」
という表現もあり、差別と
関わっている団体の機関紙と
しては、あまりにも言葉遣いが乱暴すぎると思
った。

女性差別反対の運動は大切なことだと思
う。団体の中には個人的に尊敬する人もい
る。だが、こんな言葉遣いの問題ひとつで、運動そのも
のまで陳腐に見られてしまふこともある。世
の中、他の社会差別にも気を配ってほしい。(益)

11月に出した機関誌117号の
上掲のような投稿(横型の中
かに見ると平等)の中に新聞記
者が指摘された表現がいくつも
ありました。それに気付かず、うっかり
そのまゝ編集者へ書いていたのが、
不注意でした。夏音(音子)も
という表現が差別である事も
知らなかったのだ。その言えは昔
何の読んだ事があるとはばり

な記憶が浮かんで来ます。差別の世の中へと運動して... と 夏音の中で。

読んで下さった あやふの(益)に、本当にありがとう。

以後気をつけよう。勉強します。

